

★ ハスモンヨトウ情報（豆類） ★

発生量が多発傾向
今後、小豆、大豆での発生に要注意

ハスモンヨトウの発生状況

- (1) フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ(写真1)の誘殺数は、京田辺市、亀岡市、京丹後市とも6月第6半旬に平年値(例年値)を上回った値でピークとなり、その後、誘殺数は減少傾向を示して平年値(例年値)を下回りましたが、亀岡市では、7月第5半旬から再び、急激な増加傾向を示しています(図1)。亀岡市における7月第6半旬～8月第1半旬の誘殺数の合計値は125.7頭(例年値72.5頭)で、**例年比多い**発生でした。一方、京田辺市は27.9頭(平年値67.2頭)、京丹後市は56.7頭(平年値55.3頭)で、それぞれ平年比少ない、平年並の発生でした。
- (2) 大阪管区気象台平成27年8月6日発表の向こう1か月の近畿地方の気象予報では、**気温は平年比高い**または平年並と予想されており、**ハスモンヨトウの発生、増殖に好適な高温条件が続きます**。現在、平年並以下の発生地域であっても、世代交代が進むとともに発生量が多くなり、大きな被害が出るということが予想されます。
- (3) 亀岡市内にある農林センターや現地の小豆ほ場では、既に幼苗で白変葉(写真2)が見られ、今後、被害が拡大することが懸念されます。



写真1 ハスモンヨトウ幼虫(矢印)

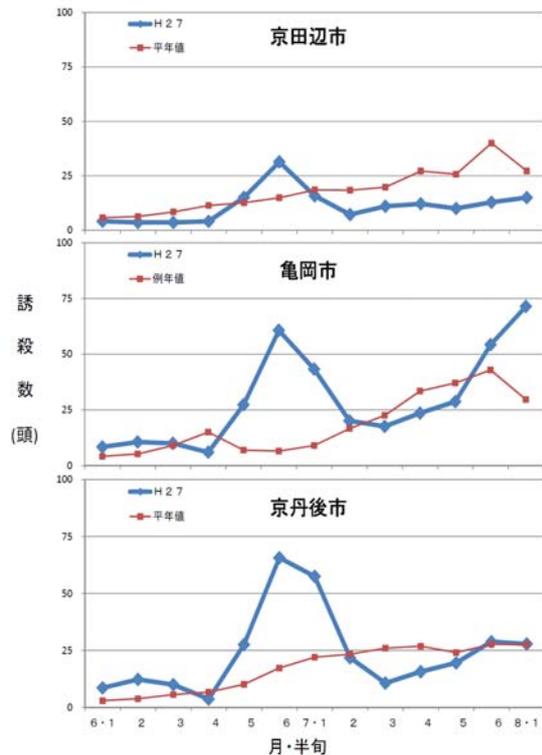


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの発生推移

防除上の留意点

- ほ場を見回り、若齢幼虫分散前の白変葉(写真2)の早期発見、除去に努めてください。
- 齢が進んだ幼虫は薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重要です。
- 小豆では、子実害虫類(アズキノメイガ、マメノメイガ、サヤムシガ類など)、オオタバコガ等の発生にも注意してください。
- 農薬を使用する際には、使用基準を遵守して適正に使用してください。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。



写真2 小豆幼苗で発生した白変葉(左)とそれに隣接した幼苗に分散、寄生するハスモンヨトウ中齢幼虫(右矢印)